

## 第44回 令和7年6月17日(火)

### 弱者の戦略について。

本日は記録的な暑さになるようです。水分だけとのではなく、塩分もしっかりと補給してください。また一人ひとり体調は違いますから無理をせず、顧問に言って休んでください。(誰にも気づかれず休むことのないように注意してください。)朝から6月とは思えない、真夏の暑さです。体が慣れていないので本日は最大限の注意をしましょう。

私がチームを見ていた時は挑戦者的な立場で戦うことがほとんどでした。絶対的な力量の差がある相手と戦うとき、その心構えとは何でしょうか。

試合の入りから相手に「何かいつも違うな」とか「やりにくいな」と思わせることが大事です。王者には必ずぶれない得点パターンがありますので、そこに圧をかける。「1対1」ではかないませんが、数的有利を作ることで「この形だけはつくらせない」ということが可能になります。

もちろん王道のパターンをつぶしても、点差はある程度離れてしまいます。例えばバスケットの場合、私は残り5分で10点差を目安にしていました。逆算して3ピリオドなら15点差まで、前半終了時なら20点差までなどです。ただ「60対40」と「20対0」ではもちろん考え方は変わります。

相手が居心地の悪い戦いを続いていると後半で焦りが生まれることがあります。強引に自分たちの得意な形に持っていくとする時間帯があればチャンスです。その焦りは今まで得点できていた王道以外の戦法に悪影響を与えます。もともと自分たちに絶対の自信がない方法で点が取れていた相手チームに、このあたりで得点がとまる現象が起きます。

勝つために奇跡を起こすためにはこのチャンスに自分たちを信じてシュートが打てるのかどうかです。弱者にとってはこの一瞬のために今まで練習してきたといっても過言ではありません。よくゾーンに入ると言いますが、会場も巻き込んで「何かおきるのではないか」という雰囲気を作り出します。

ここが難しいところなのですが逆転は試合間際がベストです。あまりに早く試合がひっくり返ると気持ちが守りに入り魔法が解けてしまうことがあります。残り何秒かで相手の心が折れる時間帯に逆転することが理想ですがそううまくはいかないと思います。

早めに逆転したら、そのタイミングで相手がタイムアウトを取ることが多いので、そこで私は「絶対にまた逆転される」という想定で組み立てを説明していました。

「残り5分10点差以内の負けなら作戦通り」と指示します。相手に焦りがあるとこのあとも容易に点はひっくり返らないのですが…。これが弱者の勝ちパターンでした。もちろんうまくいくのは10にひとつですが、はまると痛快でした。